

瀬戸内市民病院 健康管理センターだより

瀬戸内市民病院 健康管理センターだよりを四半期ごとに発行します。
2020 年夏号では、健診担当医・婦人科医師・受付スタッフの紹介です。

健診担当医師の紹介

健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義され、日本人の健康寿命は年々伸び、2016 年では、男性 72.14 歳・女性 74.79 歳でした。これは世界中の国別でもシンガポールに続く第2位の成績です。その最も大きな原因として、平和国家で温暖な気候に加え、医療水準が高いことが挙げられています。

しかしながら岡山県は温暖で国内での医療体制も大学病院を中心に高水準であるにもかかわらず、国内の県別ランキングでは、男性は 71.49 歳で 36 位、女性は 75.09 歳で 21 位という結果になっています。この原因として挙げられている一つに、暮らしやすい地域性が故に日頃の健康に疎いからだという意見があります。その裏付けとして 2017 年の厚生労働省の統計発表の中で、全国の特健健診の実施率は 53.1% (4 年前は 47.1%)、保健指導は 19.5% (4 年前は 16.8%) という結果が出て、岡山県はいずれも全国平均を下回る結果となっています。厚生労働省は実施率 70%、保健指導 45% を掲げていますが、改善傾向とは言え、まだまだ目標値に程遠いのが現実です。そして興味をそそられることは、全国の過疎地と言われる町村では人口が少ないこともありますが、受診率 100% の自治体がいくつもあり健康寿命が全国平均より高いという結果が出ていることです。つまり過疎地が故に医療機関も乏しいのですが、却って健康に関して健診をまめに受診し健康寿命を保っている人達が多いという結果につながっています。

瀬戸内市民病院では新病院建設を機に健診事業に力を注いでおり、年々受診者が増加しています。それに伴い婦人科検診の導入や、保健指導にも新たにスタッフを配置しており、瀬戸内市内ひいては東備地区の健康寿命の増進に寄与し、皆様の「長寿で健康生活」に貢献したいと思っています。そのためにも皆様の健診への関心を盛り上げる努力を様々な方向から計画すると共に、健診の受診を改めてお願い申し上げます。



院長 竹内 龍三



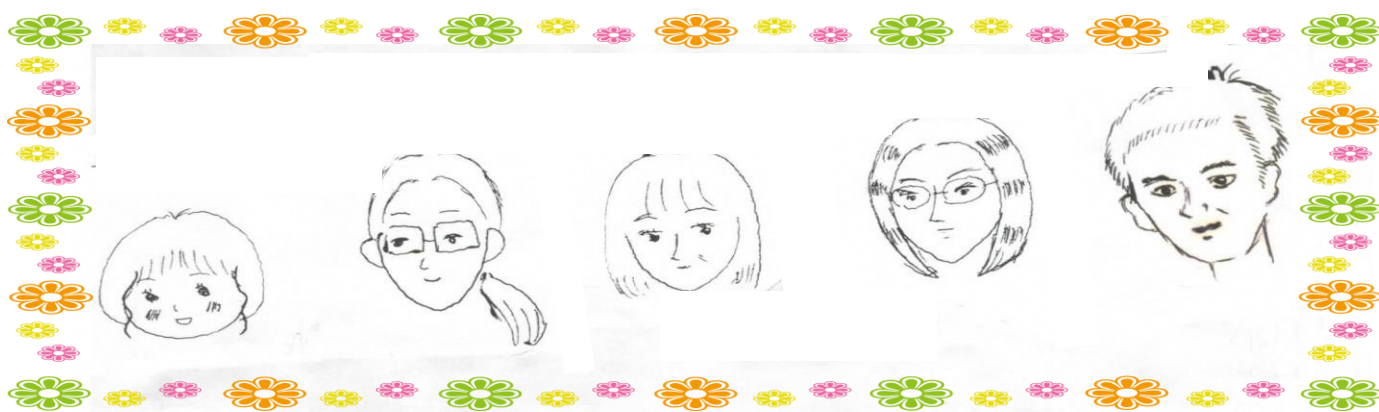
瀬戸内市民病院 健康管理センターだより

婦人科医師の紹介

子宮がん検診は、岡山赤十字病院の産婦人科の医師が毎週水曜日の午前中に担当をさせていただいております。

初期の子宮頸がんは自覚症状がほとんどないため、早期発見には子宮頸がん検診が必須です。検査は子宮の入り口をブラシで擦って、細胞を採取します。検査に伴う痛みはほとんどありません。

定期的な検診をお勧めします。



婦人科検診実施日

子宮がん検診：毎週水曜日(午前中)

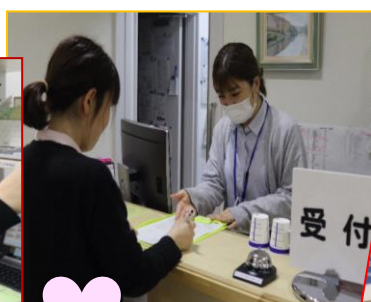
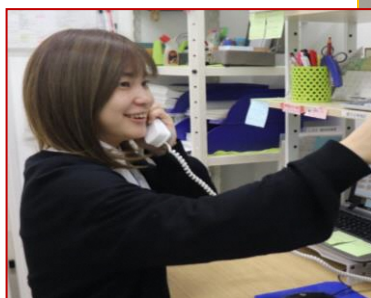
乳がん検診：毎週火・水曜(午前中)

※予約制となります

受付スタッフの紹介

受付の業務は、「予約の受付・健診当日の受付・受診者様の検査のご案内・結果報告書の作成」等を行っております。皆様に快適な健診を受けて頂きたい、温かみのある接遇を心がけております。

健診の受診におきまして、何かお気づきの点がございましたらご遠慮なくお申し付けください。



次回は 2020 年秋号
看護師・内視鏡室のご紹介です

